

しまねけん
雲南市



○お問い合わせ先○

一般社団法人 雲南市観光協会

〒699-1311
島根県雲南市木次町里方26-1(JR木次駅内)
TEL0854-42-9770 FAX0854-42-9771

雲南市の観光サイト
「うなん旅ネット」



<https://www.unnan-kankou.jp/>



しまねけんうなんし
「島根県雲南市」って、
どんなところ？

島根県雲南市は、島根県の東部、松江市と出雲市の南側に位置しています。出雲地方の南にあることから「雲南(うなんん)」です。市内を流れる斐伊川流域にはヤマタノオロチに関わる伝承地が数多く残され、地名の由来は奈良時代に完成した「出雲國風土記」にたどることができるなど、神話と歴史に彩られたまちです。

アクセスガイド

※雲南市中心部までの交通手段と所要時間



出雲緑結び空港から 車(タクシー)で約20分
米子鬼太郎空港から 車(タクシー)で約1時間



JR松江駅からJR木次駅まで約1時間
JR出雲市駅からJR木次駅まで約1時間

山陽自動車道から

広島JCT～三刀屋木次IC 約1時間45分
尾道JCT～三刀屋木次IC 約1時間40分



中国自動車道から

三次東JCT・IC～三刀屋木次IC 約55分
東城IC(国道314号経由)～雲南市 約1時間45分

山陰自動車道から

松江玉造IC～三刀屋木次IC 約25分
出雲IC～三刀屋木次IC 約25分



しまねけんうなんし
島根県雲南市

ヤマタノオロチ伝説と巡る旅

日本最古の歴史書「古事記」に残るスサノオノミコトのヤマタノオロチ退治。この舞台が島根県雲南市をはじめとした斐伊川流域といわれており、現在でも数多くの伝承地が残されています。奥出雲の原風景の中に残される伝承地を巡り、神話ロマンに浸ってみてはいかがでしょうか？きっと“すがすがしい”気分になっていただけるはずです。

※「古事記」とは!?

奈良時代の712年(和銅5年)に大伴万侶によって献上された日本最古の歴史書。全3巻のうち、神々の物語を描いた上巻の3分の1を、出雲神話が占めています。

市内に残る神話伝承地は、古事記をはじめ、出雲國風土記(733年)、天淵八叉大蛇記(1523年)、雲陽誌(1717年)などにたどることができます。

古事記に残る『ヤマタノオロチ退治』ストーリー

高天原を追放されたスサノオノミコトは、出雲の国を流れる「肥の川（斐伊川）」の河上、烏髪（トリガミ）の地に降り立ちます。人気のない川べりで川の流を眺めていると、河上から「箸」が流れてきました。上流に人が住んでいると悟ったスサノオノミコトは、川を上流へと溯ると、老父と老女が間に若い娘を置いて泣いているのに出会います。

スサノオノミコトが「お前たちは誰か」と尋ねると、老父は「私はこの国を治める国神で、オオヤマツミノカミの子・アシナツチと申します。妻の名はテナツチ、娘の名はクシナダヒメと申します」と答えました。また、スサノオノミコトが「なぜ泣いているのか」と尋ねると、アシナツチは次のように答えます。「私どもにはもともと八人の娘がおりました。ところが、高志のヤマタノオロチが毎年やって来ては、娘を一人ずつ食べ、今はクシナダヒメただ一人となりました。今年もそろそろオロチがやって来る頃になったので、それが悲しくて泣いているのです」。「そのオロチとやらは、どんな姿をしているのか」とスサノオノミコトが尋ねると、「目はほおずきのように赤く、一つの身体に、頭が八つ、尾も八つございます。胸は蒼おし、背にはヒノキヤスギが生えていて、その長さは八つの山、八つの谷に渡るほどで、その腹を見れば一面に血がにじんで、赤く爛れています」とアシナツチは答えました。これを聞いたスサノオノミコトが、「私がヤマタノオロチを退治したら、この娘を私の妻に出来ないだろうか?」と言うと、「恐れ多いことですが、貴方様のお名前も存じませんので」とアシナツチが答えたので、「私はアマテラスオオミカミの弟でスサノオと申す。今しがた高天原から天降ったところだ」とスサノオノミコトが言うと、「それは恐れ多いこと。娘を差し上げましょう」とアシナツチ、テナツチは言いました。



そこでスサノオノミコトは、クシナダヒメを爪櫛に変えて、自分の角髪に刺すと、アシナツチとテナツチに向って「そなたたちは、八塩折に絞った強い酒をつくり、また垣根を張り巡らし、その垣根に八つの門を設け、門ごとに八つの棧敷を構え、そこに酒船を置き、八塩折の強い酒で満たし、事が成るのを待つがよい」と命じました。

命令を受けたアシナツチ、テナツチが、スサノオノミコトに言われたとおりに準備を整えて待っていると、やがて恐ろしいヤマタノオロチが姿を現し、八つの頭を八つの酒船に突っ込んで、ガブガブと酒を飲み干しました。醗しに醗した強い酒だったので、さすがのオロチも酔いが回って眠ってしまいました。



この機を待っていたスサノオノミコトが、その腰に帯びた十拳の剣を抜いて、ヤマタノオロチをズバズバに斬り払うと、斐伊川の水が真っ赤になって流れました。そして、オロチの中ほどの尾を斬った時、十拳の剣の刃がこぼれたため、これは怪しいと思って尾を切り開いてみると、中から見たこともないような素晴らしい剣が出てきました。スサノオノミコトは、この剣をアマテラスオオミカミに献上しますが、これがいわゆる草薙の剣（天叢雲の剣）です。

ヤマタノオロチを見事に退治したスサノオノミコトはクシナダヒメと結婚し、宮殿を造るところを出雲の国に探し求めます。そして須賀という土地に至った時、「わたしはこの地に来て、心がすがすがしくなった」と言って、そこに宮を造ってお住まいになりました。これが須賀という地名の由来になっています。

須賀の宮を造る時、そこに白い雲が幾重にも立ち上る様を見たスサノオノミコトは、「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくるその八重垣を」という御歌を詠みました。

そして、スサノオノミコトはアシナツチを呼ぶと「おまえを、この宮の首長に任じよう」と言って、稲田宮主須賀之八耳神という名を与えました。



雲南市内のヤマタノオロチ伝説伝承地

箸拾いの地



スサノオノミコトが、斐伊川の上流から流れてきた箸を見つけ、拾った場所が木次町新市の地であると伝えられます。

八咫大蛇公園（木次町新市）

オロチの棲み家



ヤマタノオロチが棲んでいたとされているところとされています。また、天が淵に近い万歳山（ばんざいさん）にアシナツチ、テナツチが住んでいたとされています。

八咫大蛇公園（木次町新市）

アシナツチとテナツチの神陵



アシナツチ、テナツチの神陵「二神岩」（ふたごいわ）が万歳山の山腹にあり、この礼拝所が温泉神社の境内に移設されています。

温泉神社（木次町新市）

竹杖が伸びてきた



アシナツチ、テナツチがヤマタノオロチから逃げる途中、この地に立ち寄り一本の杖を立てたところ、竹が生えてきたので、長者の櫛杖という地名になったと伝えられます。

長者の櫛杖（木次町西口）

八塩折の酒を造った釜跡



スサノオノミコトが、オロチに飲ませる「八塩折の酒」（やしおりのさけ）を造らせた釜跡といわれています。

釜跡（木次町西口）

八塩折の酒を入れた壺



印瀬の八口神社（やくぢんじや）の境内に祀られる「壺神さん」は、「八塩折の酒」を入れた八つの壺の内の一つといわれています。

壺神（木次町西口）

酔ったオロチが状にした山



「八塩折の酒」を飲んで、酔いつぶれたヤマタノオロチが寝て寝た山といわれています。

草枕（加茂町神原）

スサノオが矢を放った地



草枕山を杖にうめき苦しむヤマタノオロチに向け、スサノオノミコトが矢を射られた場所と伝えられます。

八口神社（加茂町神原）

天叢雲剣発祥の地



スサノオノミコトが、オロチの尾を開き「天叢雲剣」（あめのむらくものつるぎ）を得られた場所と伝えられ、「天叢雲剣発祥の地」といわれています。

尾呂地神社（おろぢんじや）

オロチの頭を埋めた



スサノオノミコトが退治したオロチの八つの頭を埋め、その上に八本の杉を植えたといわれています。

八本杉（木次町黒石）

婚儀の相談をした地



ヤマタノオロチを退治したスサノオノミコトが、須賀の地へ向う途中、大森の地にしばし滞られ、クシナダヒメとの婚儀の準備をされたといわれています。

大森神社（木次町黒石）

喜びの舞を踊った



オロチを退治したスサノオノミコトが、「佐世の木」を頭に挿して喜びの舞を興っている時、その枝が地に落ちたことから「佐世」という地名になったといわれています。

佐世神社（木次町下佐世）

日本初之宮



ヤマタノオロチを退治したスサノオノミコトが、クシナダヒメと通った「日本初之宮」（にほんはつのみや）

須賀神社（木次町須賀）

クシナダヒメの御産所



クシナダヒメが懐妊されたとき、産湯に使う良い水を探し求め、河辺神社あたりの地を御産所に定めら

河辺神社（木次町上熊谷）

オロチの尾を祀る



石霊神社の境内地である「尾呂地神社」（おろぢんじや）には、スサノオノミコトによって切り落

石霊神社（木次町平田）

ヤマノオノミコト・クシナダヒメ、そしてヤマタノオロチがお待ちしていますよ・・・。

八俣大蛇伝承地をご案内しましょう

🌀 神話の世界でおちらと(ゆっくりと)お過ごし下さい。🌀



雲南市周辺のヤマタノオロチ伝承地	
船遊山 (奥出雲町)	高天原(たかまがはら)を逃げたスサノオノミコトが最初に天降ったのが船遊山の麓、鳥居(鳥上)の地であったといわれています。
稲田神社 (奥出雲町稲穂)	八雲(やん)を八俣(やま)に降したスサノオノミコト(クシナダヒメ)誕生の地と伝えられ、稲田神社はイナタヒメを主祭神として祀っています。
元結掛の松 (奥出雲町佐伯)	クシナダヒメが髪を結うとき、元結(もとゆい)【髪を結び兼ねる】を掛けた松といわれています。
鏡が池 (奥出雲町佐伯)	クシナダヒメがこの池を鏡に照らして髪を梳(くし)りつけた(髪をたし整えた)といわれています。
長者屋敷跡 (奥出雲町佐伯)	クシナダヒメの間接、アツナスチとテナツチに住んでいた御殿跡といわれています。



「ヤマタノオロチ伝説の舞台・雲南」を、「おもてなしの心」でご案内するのが雲南市観光ガイドです。神話ロマン溢れる数々の伝承地を「おちらと(ゆっくりと)」ご案内しますので、ぜひご利用ください。

《ガイド料金》ガイド1名につき2時間まで2,000円、以降1時間ごとに1,000円加算。《ガイド1名で20名まで案内可能》
 《申し込み先》一般社団法人 雲南市観光協会 TEL.0854-42-9770
 ※ガイド利用日の1週間前までにお申し込みください。

オロチ伝承地を地元ガイドのご案内します!!

神話の聖は「神楽」も盛んです!!

雲南市には、ヤマタノオロチをはじめとする出雲神話を演目とした「神楽」が古くから伝承されており、現在でも数多くの神楽団体によって守り伝えられています。古代鉄歌謡館では毎月定期上演を行っており、神話の里に引き継がれる伝統の舞を鑑賞いただけます。

《定期上演日時》毎月第2土曜日 19:00～21:00 2演目を上演
 ※上演日が変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

《料金》高校生以上500円、小中学生200円、小学生未満無料
 《問い合わせ先》古代鉄歌謡館 TEL.0854-43-6568 ●住所：雲南市大東町中溝84 ●休館日：火曜日、12/29～1/3

※写真はイメージです

